

令和6年10月16日
記録者：高齢福祉課 長谷川

- 会議の日時：令和6年10月16日（水） 13時30分から15時05分まで
- 場所：瑞浪市役所 保健センター3階大会議室
- 出席者：熊澤清和 成瀬和子 加藤輔之 高橋明範 大竹悦子 永治昌代 前川新吾
三輪晃治郎 岩島夕夏 片桐千絵 浅川信之 橋本好江 加藤聖二
事務局：小木曾昌弘 梅村やよい 長谷川幸 渡邊愛加

■ 議事：

1. 開会
2. 健康福祉部長あいさつ
3. 委員の紹介
4. 委員長及び副委員長の選出
5. 委員長あいさつ
6. 議題
 - 1) 生活支援体制整備事業の概要について
 - 2) 今年度の活動報告
 - 3) 意見交換

～地域の状況・課題の共有と、今後の取組について～

テーマ「地域の課題から、どのような支え合い活動が必要か」

【各委員より】

- ・長寿会は、自分たちの力で、支え合い、見守り、地域の保全活動を積極的に行い、自分の健康を自分で守ろうと話しながら活動している。各分野が連携し、高齢者はよく守られていると感じる。
- ・高齢者同士の支え合いが無いと生活できない人もいる。支え合い活動が高齢者の生きがいにつながると思う。
- ・コロナ禍で開催できなかったサロンが復活し大変ありがたいが、交通手段がなく参加できないと聞くと聞くとある。バスの本数が少なく交通手段が乏しいため外出が難しかったり、独居の方はもちろん、家族と同居であっても日中家族が仕事等のため不在で送迎できなかったりと、移動手段は大きな問題である。
- ・高齢者同士の乗り合わせで移動することもあるが、運転が心配でサロン等に行くことを躊躇することもあると思う。交通の便利さが閉じこもり予防に繋がると思う。
- ・町内に病院が無く、また移動手段が無く、通院が難しいという声を聞く。対策を。
- ・移動販売が大変助かっているという声を聞く。現在、移動販売が来ていない地区の方から、移動販売を利用したいという声を聞く。
- ・地域の12の福祉関係団体が集まり、毎月1回例会をしている。町のいろんな福祉問題の意見交換をしている。具体的に支援が必要になれば、各々が支援を行っているが、連合区や町自体の理解が得られず非常に残念に思っている。
- ・社協支部にてサロンを毎月実施している。コロナ禍前は200名近くが参加していたが、コロナ禍で参加者が減少してしまった。昨年サロンを再開し、今、約150名が参加している。女性の参加者が多いが、参加者全体の3分の1から4分の1は男性参加者となっている。サロンでは、行政相談、健康相談のコーナーを設置。健康相談では宅老所の看護師が常駐し、血圧測定、健康相談を行っている。行政相談員は2人来て相談を受けている。
- ・社協支部にて、民生委員と福祉委員と社協役員等で意見交換会を実施している。参加者は100人程度、年2回実施し、プライバシーに関わる問題をもあるが、地域の独居高齢者等々の情報交換をしており、貴重な時間となっている。地域の見守り体制の構築ができ、非常に良いことだと思っている。

- ・シルバー人材センターは、設立から 32 年が経過。会員数は約 240 名で、20～30 年前と比較し半分以上になっている。会員の減少は、定年延長、再雇用等の影響で、60 歳代の入会が少なく。シルバー人材センター会員の平均年齢は現在 75 歳、後期高齢者に突入している。元気な高齢者である会員が地域で活躍していただくのが理想である。会員は、地域のために何かをしたい、まだまだ働きたい、生きがいを持って皆さんと触れ合いたいという気持ちで一生懸命やっている。94 歳の会員もあり、他の会員の支えとなっている。訪問介護や、通院介助、病院内での付添いも行っているが、会員数が少なく期待に応えるのが難しい状況。対応可能な会員を探し頑張っていきたい。
- ・シルバー人材センターでは各地区にて会員同士の交流を行っている。地域のボランティアも行っていることから、これらの活動を地域に発信し、地域に入っていき、独居高齢者宅の草刈や庭木の剪定、箆笥の移動など、地域の方のお手伝いができるように努めたい。
- ・民生児童委員の仕事として、独居の見守り、困り事の行政へのつなぎ役として日々活動している。働いている方も多く、民生委員のなり手が不足している。
- ・デマンドバスが運行しており、ありがたい。本数が少ないが、デマンドバスがあることで、少ない費用で市中心部まで行けることに感謝しているという声を聞く。
- ・高齢者のお茶飲み会を 11 年している。コロナ禍では、話さないことを条件で開催し、開催できない時は参加者を訪問していた。当初 30 人程だった参加者は、徐々に亡くなれる等で、現在は 15 人程となった。市や地域包括支援センターの出前講座等を中心にして行っている。移動手段が無く参加できない方が増える中、こういった地域の集いをどのように行っていくと良いか、情報収集したい。
- ・介護保険サービス事業で訪問介護を行っているが、介護保険では実施できない依頼が多々あったため、制度外の実費サービスを始め、3 年程になる。シルバー人材センターと同様な内容で、草刈りや家具の移動、ごみ捨て等の依頼がある。最近は、亡くなられた方の住居の中の片づけも行った。隙間産業という発想で実施を始めた。介護保険の中で受診の付添いができないことから、独居高齢者の受診の付添いの依頼が多い。家族が遠方だと同行できないため、実費サービスの依頼となる。また、夏の間は草刈り依頼が多い。
- ・高齢者宅に訪問しサービス提供を始めると、全く支援の手が入っていなかったと感じられる方に会うことも多々ある。そんな方たちがサロンに通うことができるよう、介護保険の事業所として、サロンのつながりができたらと思う。
- ・新聞販売店では、市と高齢者の見守り活動に関する協定を締結し、新聞の取り忘れの観点で見守りを行っている。新聞受けに新聞が溜まっていたら行政へ連絡している。独居になると、新聞をやめる方もいるため、難しい部分もあるが、できる限り協力したい。
- ・新聞業界では、数年前から新聞ちぎり絵を実施している。新聞ちぎり絵は、新聞の様々な色を集めて貼り合わせて絵にする活動。残念ながら、現在、瑞浪の販売店はあまり活動を行っていないが、昨年一度、地域交流センターときわで実施した。他の地区では、販売店の協力、高齢者施設の協力により実施していると聞く。新聞を使って高齢者が楽しめることを広め、その在宅の方が新聞を取ってみようと思っていただければ、直接的に生活支援体制整備事業につながるのではないかと考えた。寿大学からも新聞ちぎり絵の問合せがあり、寿大学でも実施したようである。今後、このような活動の拡大について、市内の販売店で話し合えればと思う。
- ・移動スーパーを行っている。昨年までは市内を 3 人のドライバーで回っていたが、現在は 1 台。民間企業として利益も追求しなければいけない中で、撤退を決めたドライバーもいた。サービスを提供したくても、人手の問題、運営の問題でどうしてもできないことがある。全国的な問題だと思うが、人口減少が続く中で、介護関連施設やサロンについても人手の問題があると思う。高齢者が快適に暮らし、より豊かになってほしいと思っているが、やろうと思ってもできない現状があると思う。今回この委員会は高齢者への支援強化という理念のもとに集まっていると思うが、高齢者というエンドユーザーへの最終的、表面的なところだけ語るのではなく、サービス提供事業者自身が強くなれる方法を考えていかなければいけないと思う。高齢福祉課だけではなく、経済面や雇用創出の部署等、多岐に渡る分野が一体になって考えていかなければ、解決に向かっていけないと思う。

- ・ふれあいいきいきサロンを推進している。ふれあいいきいきサロンの本来の目的は、歩いて行ける集会場等の一つずつあると良いという考えで推進している。様々なサロンがあるが、仲間づくり、介護予防、見守りを目的として続けている。介護サービスを使いながらも利用できるよう、自宅へ迎えに行ったり、認知症の方には事前に連絡し当日迎えに行ったりされるサロンもある。また、排せつの介助が必要な方へ介助を行うサロンや、デイサービス利用日以外の日を開催日としているサロンもある。皆がサロン運営を他人に任せると、自分で来られない方の参加が難しくなる。誰でも参加できるサロンとなるよう、サロンへの支援を行いたい。
- ・社会福祉協議会で地域福祉活動計画を、市で地域福祉計画を策定している。各地域の現状を見ていく中で、見守りや孤立防止のため、地域での支え合いや助け合いは大事だと思うが、地域のどこに誰がいるか、どんな人がいるかが分からなくなっている、という話を聞く。社会福祉協議会支部、民生委員、地域づくり団体、自治会等でそれぞれ地域のために活動しているが、それぞれが持つ情報を共有できないためにうまくいかないことが見受けられる。この点も、考えるべき事項であると思う。
- ・人口減少、担い手の高齢化、後継者不足により、各組織で実施できることが少なくなり、衰退気味になっていると感じる。組織の数が多いと、担い手も多く必要なため、運営が厳しくなる要因であると感じる。地域のために何とかしたい、やれることをやっていきたいと思う人が効率的に動けるような方法も、支援していかなければいけないと思う。
- ・地域支え合い活動で一番必要なことは、全ての人が支え合いを意識することだと思う。元気な方が助けるというのが一般的なのかもしれないが、要介護者でもできることがあると思う。子どもの頃から困っている人がいたら助けるという認識が必要だと思う。普段、普通にそういう意識が持てるような社会が、住みやすい、誰もが住みやすい町になっていくのではと思う。そのことを皆さんにどうやって周知していくと良いか、日々悩んでいる。
- ・生活支援体制整備事業は、住民の皆さんが主体になる活動、助け合い支え合い活動が重要なポイントである。生活支援コーディネーターは、定例会や住民との懇談会、周知活動などの活動をしているが、懇談会に集まった地域住民の方々のペースに合わせる、こちらが結論を急かさないことを大切にしている。市内でも、地域によって土地柄も違い、高齢化率も異なる中で、各地域のニーズに応じたアプローチ方法を検討している。
- ・プライバシーの問題もあるが、地域の中で孤立している方、サロン等に参加されていない方、御近所付き合いがない方等のサポート方法等、具体的な支え合い活動の内容についての相談を耳にすることがある。移動手段等、多くの課題があり、すぐに具体的な解決策につながらない。今後、肩車社会が見込まれていること、行政サービスだけでは担えない部分が出てくることを、地域住民の方々にお伝えしていくことが重要だと思う。
- ・交通手段が無く、病院受診できない高齢者が増えている印象。この会議で、医療、交通手段、移動手段の問題は密接な関係があると感じた。
- ・関係者で支え合い活動の活性化について話し合っているが、生活支援体制整備事業は、課題解決のための活動を行うという考え方ではなく、地域でできることを見つけていくという考え方をしている。交通手段は大きな課題でなかなか解決策が見つからない。
- ・対象者が多いものは公的サービスや企業サービス、対象者が少ないものは公的サービスとすることが難しく、企業としても実施が難しいと思う。この対象者が少ない部分について、工夫が必要になってくると思う。
- ・住民に、助け合い、支え合いの心を植え付ける仕掛けが必要であると思った。
- ・各委員が、今後の活動の中で、他の委員の意見の取り入れ、活動を広げていただきたい。

7. 閉会